

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472603131	事業の開始年月日	平成17年12月1日	
		指定年月日	平成17年12月1日	
法人名	医療法人社団仁和会			
事業所名	グループホームひばり			
所在地	(〒252-0244 神奈川県相模原市中央区田名2750-14			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	20163/3/6	評価結果 市町村受理日	平成29年5月30日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来ることは見守り、出来ないことを手伝う。そんな当たり前のことを、当たり前に行える施設を目指しています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成29年2月21日	評価機関 評価決定日	平成29年5月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、JR橋本駅南口からバスで12分の「葛輪」バス停で下車し徒歩7分ほどのところに位置している。近隣は所どころに農地が見られ、遠方に丹沢や奥多摩の山並みが臨める閑静な戸建て住宅地である。また地形は平坦であり、日常の散歩も安心してできる地域である。バス停の近くにはコンビニが立地し買い物にも便利である。建物は鉄筋コンクリート造り2階建てで堅固な造りになっており、1階のユニット、2階のユニットともそれぞれ玄関があり独立した構造になっている。</p> <p>【法人内施設・事業所の連携】 法人は、市内で病院、介護老人保健施設及びグループホーム3事業所を運営している。法人経営の病院が協力病院となっているため医療との連携が円滑で安心できる体制となっている。看取り介護は実施していないが、重度化した場合は協力病院の医師、看護師と連絡を密に取り合い、利用者にとって適切な対応が出来るよう努めている。 法人経営の3事業所は、人事、運営、研修等で連携している。法人内で定期的に人事異動を行ったり、協力して毎月研修を行っている。また、花見や紅葉狩りなどの外出や通院の際は、介護老人保健施設のワゴン車と運転手を借りて出かけている。</p> <p>【支え合いの生活】 職員は、利用者が笑いの多い健康な生活を送れるようにと努力している。利用者の自立的な生活を支援しながら、人生経験豊かな利用者から教えられることもある。また、昼食時に利用者同士が世話をし合うなど、職員、利用者が支え合いながら生活し、理念の「触れ合い支え合い 認め合い 安らげる生活の場」を実践している。</p>
--

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームひばり
ユニット名	1F2F

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を数箇所に掲げている。その理念を念頭に置き日々実践につなげられるようにしている。	入職時、職員に理念の説明を行っている。職員が、人生経験豊かな利用者から学んだり、利用者同士がお互いに支え合うなど理念の「支え合い」が実践されている。理念は玄関、事務所、リビングに掲示され共有されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し散歩時の挨拶、地域行事の参加等少しずつではあるが交流ができています。	葛輪自治会に加入しており自治会のチラシが配布されている。近隣は古くからの住民が多く、散歩時に挨拶や立ち話を交わしている。神社の夏祭りやどんど焼きに参加している。マジックショー、和太鼓、アコーディオン等のボランティアが来訪している。昨年は、近隣の中学校の合唱部が来訪し、交流があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設の地域はお元気な方が多く認知症の理解があまりないように思われます。施設からの発信がまだまだ弱いのでこれからの検討課題です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度の会議が規定回数できなかったため今年度は行事予定に組み込み順調に開催中。いろいろアドバイスを頂き、少しずつではあるが実践しつつある。	今年度から2ヶ月に1回開催している。参加者は、家族代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員である。地域の老人会や認知症カフェの活動、中学校合唱部との交流等について意見交換をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組むよう努力はしているが連携は取れていない。	市の高齢政策課と連絡を取り合い、市主催の研修（虐待防止、身体拘束禁止、感染症防止等）に定期的に参加している。相模原市グループホーム協議会と有志のグループホーム連絡会に参加している。連絡会では後見人についての研修に参加した。生活保護費受給者が入居しており、市生活支援課の職員が定期的に来訪しているので、その際に話し合っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては全員が理解している。玄関の施錠に関しては、一般の家庭と同じく夜間は完全に施錠している。	法人が毎年実施している身体拘束禁止及び虐待防止の研修を受講し、月1回のミーティングで具体例を話し合っている。玄関は危険防止のため施錠しているが、外へ出たい利用者には一緒に散歩に付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に本部で行われる研修に参加している。また、月1回行うミーティングでは身体拘束、虐待についての話し合いがもたれている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なかなか学ぶ機会がないが今後増えていくであろう事なので本部などに働きかけていくつもりです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等は本部で行っているため直接関わっていないが、質問、疑問には誠意を持って、理解、納得して頂けるよう努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、面会時の声かけ、普段のホームでの様子の説明など話やすい雰囲気を作っている。	ご意見箱を設置し、家族会を開催している。家族の来訪時には話し合いをしたり、要望を聞いている。毎月、職員が作成した利用者の様子や行事等のお知らせを家族あてに送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、ミーティングを行っている。また、会議に限らず気になること等、報告を受けた際は検討し、送りノートに記入し、情報を共有している。	月1回のミーティング等で提案があれば、まず試して改善につなげるようにしている。利用者の経費負担軽減等のために小さなパッド着用に変更した改善事例等がある。管理者は職員の意見、提案を常に受け入れる姿勢を心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員の意見を聞き、職員の配置や契約を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相模原市のグループホームが集まり年に何回か話し合いの場がある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する段階で本人の意見、要望を聞き、できる限り希望に添えるよう柔軟な対応を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15と同じく家族の意見、要望を聞き対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に本人、家族の訴えに耳を傾け、必要があれば他のサービスも利用できるような努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ること、出来そうなこと、またはやりたいことを見極め、声かけし、出来ないところを補っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お互いに情報を共有し、家族とともに支援していけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出等できるよう支援している	花見等で馴染みの場所に出かけた際に職員は利用者の話を聞き、その気持ちに寄り添っている。金魚やウーパールーパーの飼育、トマト等の栽培、干支の絵を描くなど趣味の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格等を把握し、必要に応じて職員が間に入りより良い関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 困難な場合は、本人本位に検討している。	日々接している中で職員、利用者同士の会話等から希望、意向の把握に努めている。	意思疎通が困難な方が多いので、日頃からコミュニケーションを大事にしており、表情や素振りを見て意向を汲み取っている。居室の適切な温度管理や水分補給など、利用者の意向を把握しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室は個室で一人一人好きなように家具を配置し、飾りつけをしている。入居までの生活歴を把握し支援できるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事時間等、大まかな時間配分はあるが、個々のペースで生活できるよう、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、日々接しているなかで、意見を交換し、家族にも意見を聞き作成している。	入居時に家族等からの情報に基づき1~3カ月の暫定計画を作成し、入居後にはアセスメントや医師等の医療情報を反映させた介護計画を作成している。見直しは、3か月ごとのモニタリングや収集した医療情報に基づき6か月ごとに、状況に変化があればその都度行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録用紙に記入し、申し送りノートで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ、個々の利用者の希望にそった支援、サービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事のときなど、ボランティアの受け入れをしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回かかりつけ医の往診がある。また、かかりつけ医の専門外の場合、紹介状を書いてもらうなどして柔軟に対応している。	利用者の選択により、全員の方が法人が経営する協力病院の医師の往診を月1回受けている。数名の方が眼科等の専門科へ通院し、職員が付き添うこともある。訪問歯科は週に1回、全員が受診しており、数名の方が訪問マッサージを受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないがグループの病院に24時間相談ができ、必要に応じて受診もできる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連絡を取り合い、お互いの受け入れ態勢を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明があり、家族も納得している。家族会でも話し合いの場を設けている。	看取りの体制が整っていないこともあり、看取り介護は実施していない。契約の際に看取りを行わない方針を説明している。重度化した時は、法人経営の病院の医師、看護師との緊密な連携により利用者にとって安心できる入院等の適切な対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルがある。また、応急手当、初期対応の訓練も本部で研修がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、対応できるようにしている。	年2回防災訓練を実施している。食料、飲料水3日分の備蓄があり「賞味期限一覧表」で在庫管理している。カセットコンロとボンベの備えもある。緊急時対応マニュアル、避難誘導手順を両ユニットの事務所に掲示している。近隣在住の職員が緊急時にはすぐにかかけつけられる体制にある。	人員が少ない夜間の緊急時対策は重要です。夜間を想定した訓練の実施、消防署に訓練立ち合い及び指導を要請することを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しつつ、親しみが持てるような声かけを心がけている。また、排泄等見守りが必要な方に対してもプライバシーを損ねないような配慮をしている。	プライドを損ねないようにしながら家族のような親しみを込めた声掛けをしている。利用者同士のトラブルがあったときは、居室に戻って個別にゆっくり話を聞くようにしている。年1回、法人実施の接遇研修に参加している。個人情報関連資料は事務所の鍵の掛かるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を自己決定に結びつけ、できない方に関しては、表情、仕草から思いを汲み取るよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間の割り振りはあるが、その中で自由に過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	華美なおしゃれはできないが、見苦しくなく、清潔な身だしなみを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は宅配を利用し、メニューが決まっているため、あまり好みを聞くことはできないが、季節ごとの行事などで好きな出前を取ったりして希望をかなえている。	食材と献立は配食業者を利用し、調理は職員が行っている。味付けは薄味を基調にしている。利用者は下膳などできることを手伝っている。年4回程度、行事の際に外食や出前を楽しんでいる。誕生日の方がいる月には両ユニット合同で誕生会を開催し、歌を歌いながらケーキを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表で個々の摂取量を把握し、対応している。むせ込みがある方にはとろみを付けるなどして十分な量を取れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が見守り、必要に応じて介助をしながら毎食行っている。希望者は週1回歯科衛生士による口腔ケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し定時での誘導、声かけを行う。	排せつチェックシートにより排泄パターンを把握して個別誘導をしている。おむつ使用がパッド使用に、また大パッドが小パッドに改善したケースがある。これは利用者の経費負担の軽減にもなっている。マッサージ師と相談しながら訓練をして排せつ時に立位がとれる様になったなど、排泄の自立に向けた取り組み事例がある。リハビリパンツから布パンツへ移行できた例もあり、家族にも喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬に頼らず、運動や、食事等で自然な排泄を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、希望や体調により柔軟な対応をしている。また、季節ごとに菖蒲湯、ゆず湯などを楽しんでいただいている。	週2回午前中の中の入浴が基本だが要望があれば柔軟に対応している。入浴を好まない方には時間を置いて声掛けするなど工夫している。安全に入浴できるように浴室にリフトを設置している。ヒートショック対策のため浴室に暖房を完備し、脱衣場にもストーブを設置している。菖蒲湯、ゆず湯で季節を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースに合わせた休息。布団、室温等気持ちよく休めるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はいつでも見られるようになっている。誤薬のないよう細心の注意を払い服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事や毎日の家事など、利用者、職員で楽しみながらおこなっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期には出来るだけ屋外に出るようにしている。また、季節ごとに外出の行事がある。	天気の良い日は職員が車いすを押して、1対1で個別に散歩に出かけている。近くの神社の夏祭りやどんど焼きに参加している。法人のワゴン車で、花見、紫陽花見物、紅葉狩り、外食に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かりはしていないが、立替という形で希望者には買い物をしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、随時支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日（汚れたら随時）の清掃。季節ごとにディスプレイを替えたり、利用者の作品の展示など、楽しく、気持ちのいい空間を提供している。	オープンキッチンからリビング、玄関が見渡せ、見守りやすいレイアウトになっている。トイレは各フロアに3か所あり、1か所は車椅子対応となっている。リビングの壁には利用者の今年の目標、貼り絵、共同で制作したちぎり絵が展示されているほか、季節ごとのディスプレイを心掛けている。リビングには床暖房設備、加湿器、換気扇が設置され、清潔で快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大まかな食席は決まっているが自由に行き来している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自宅で使いなれたもの等個人が自由に配置し使用できる。	居室には、ベッド、エアコン、クローゼット、照明器具、車椅子が備えられており、利用者は、布団、カーテン、TV、ポータブルトイレ、テーブルなど思い思いのものを持ち込んでいる。また、家族の写真や趣味の塗り絵などが飾られている。いつ家族が訪問しても見苦しくない様にベッドの布団を畳んでおくなど、室内の清潔、整理、整頓を心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はすべてバリアフリー。必要以上に干渉せず、見守りを行い自由に生活が送れる。		

目標達成計画

事業所名 グループホームひばり

作成日 平成29年5月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回の消防訓練は行っているが夜間を想定した訓練が行えていない	夜勤者全員が夜間を想定した訓練に参加できる	各フロアに災害時避難誘導手順を貼りだしてあるので職員はそれに沿って誘導できるようにする。年2回の消防訓練は勿論だが参加できなかった職員がいた場合その職員を対象にした訓練日を作る	6か月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。